

神戸市の人工島「ポートアイランド」にある神戸医療産業都市で、産学連携で医療用ロボットの開発が進むことになった。川崎重工業や検体検査機器大手のシスメックスの共同出資会社「メディカロイド」（神戸市）は、神戸大学などが来春に開設する開発拠点を活用。専門医らの意見を取り入れ、米国に比べ後れを取る手術支援ロボの開発を急ぐ。

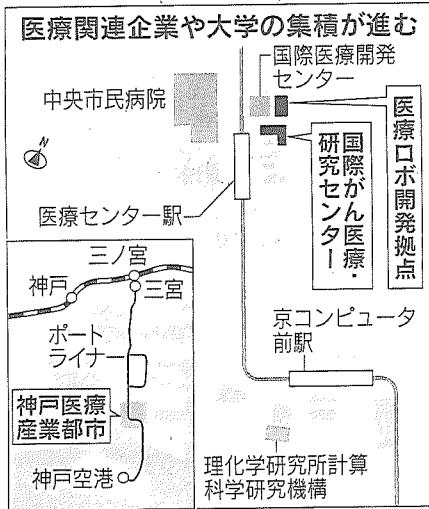
メディカロイドは2019年度に患者の腹部を切らないで穴を開けて手術する「内視鏡手術支援ロボット」の製品化を目指す。17年度中にデザインや仕様を固め、実際に発売する形に作り込む。臨床評価を積み重ねてデータをとり、19年度の発売を目指す。

手術支援ロボは手術の緻密な作業を高精度に短時間でこなせる。医師は患者から離れた場所でする（3D）画像を確認しながら、ロボットアームを操作する。切開を最小限にして手術すること、出血が少なく、回復も早い。患者や執刀医らの

# 産学連携 米社独占に風穴

## 神戸で挑む

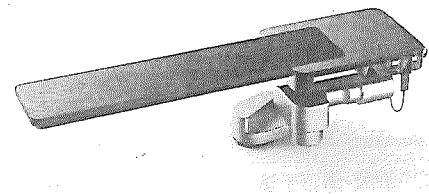
# 手術ロボ



メディカロイド 2013年に設立された医療用ロボットの開発企業。本社は神戸市。産業用ロボットを手掛ける川崎重工業と、検体検査機器大手のシスメックスが折半出資する。日本初の本格的な手術支援ロボットの製品化を目指す。3月に発売した手術台が初の製品。同手術台は、産業用ロボット技術を用いて、ベッドの傾きを細かく変えられるなどして執刀医をサポートする。

### メディカロイド、内視鏡向け

場をほぼ独占している。適用になり、今後は胃がんや子宮がんの手術でも活用が期待できるとい



ロボット技術を使ったメディカロイドの手術台は、患者を正確に移動させる

ことするのがメディカロイドだ。

その開発を後押しするのが、医療機器の開発を支援する神戸国際医療交流財団（神戸市）と神戸大が18年3月に設置する開発拠点だ。メディカロイド本社に隣接し、動物実験室や企業の試作品を臨床現場に近い環境で試せる評価室、映像で手術を疑似体験できる設備、情報交流室などが設置される予定で、文部科学省が7億5千万円を補助する。

同拠点での動物実験などを経て次の臨床評価の場になるのが17日に診療を始める神戸大の新しい病院「国際がん医療・研究センター」だ。同センターもメディカロイドに隣接し病床数は120床。外科、内科、食道・胃腸外科など12診療科を設置した。手術室は5室あり、最先端の医療機器を導入したがん医療の拠点だ。

外科医に手術支援ロボの試作品を評価してもらい、改良につなげられる地の利があり、シスメックスの家次恒会長兼社長は「臨床と企業のコラボレーションの場になる」と期待する。

### 廣田証券

神戸医療産業都市は医療品や医療機器などの開発、臨床研究の拠点として国内最大級の集積に成長した。3月末で330を超える企業・団体が進出している。今後は医療ロボット分野も柱の一つに据え、同都市に100社程度あるとされる医療機器関連メーカーにも開発拠点の活用を促す。

H.29. 4. 11

日本経済新聞 朝刊